

協働でつくりあげる未来のわがまち バックボーンは人間基礎教育の徹底

産業都市に誕生した 環境共生の新地区

大阪都心部から北東側にわずか10km、大阪府民が「母なる川」と格別の愛着を持つ淀川河畔に位置する撰津市は、面積14・87km²のコンパクトな市域に8万5000人以上の人口を擁している。

市内には4000以上の事業所（製造業中心）が立地。それらの事業所には市内外から約5万人の従業員が通う。大阪市や京都市方面へ通勤する市民も多い。毎日の朝夕に練り返されるこうした人の移動の結果、撰津市の昼間人口は約9万4000人と、夜間人口を大きく上回る（昼夜間人口比率1・13%は大阪市に次いで府内2位「平成22年国勢調査」）。まさに「北摂きつての産業都市」にふさわしいダイナミックな人の動きといえる。

森山一正・撰津市長はそうした様相につい

て、「ダイナミックでエネルギーシユともいえますが、半面、非常に荒削りな土地柄ともいえますな」と笑う。撰津市はコンパクトな市域に淀川をはじめ、安威川、山田川、大正川、境川など大小の河川が流れている。こうした大小河川が存在は、大量の水を使用する製造系事業所の集積（市域の用途指定地域の6割以上が工業系地域）を可能にした要因の一つでもあるが、幾度もの洪水被害を撰津市にもたらしました。

市域中央部を東海道新幹線が、市域北部を阪急京都本線およびJR東海道本線（京都線）（いずれも京都〜大阪間を結ぶ）が、それぞれ東西方向に貫いている。加えて大阪モノレールが大阪府道2号線（大阪中央環状線）に沿う形で、こちらは市域を南北に縦断している。

「大阪市近郊でこんなに交通至便な場所もありません。でもそれらの交通網や大小の河川が、ただでさえコンパクトな市域をあちこちで分断しているのも事実です。撰津には、

もりやまかずまさ
森山一正
撰津市長



4000もの事業所があるように、もともとモノづくりのまちです。狭いだけにアットホームな土地柄で、何かあったら『みんなて解決しようやないか』という雰囲気があるからあったまちなんです。ところが市域が複雑に分断されているため、今は交流が難しくなっている。そういった課題を解決できるような、思い切ったまちづくりをハード面でしようと思っ

も、まとまった土地はない。それがずっと悩みの種でした」(森山市長)

そんな摂津市の北部に、まったく新しい都市核として平成22年春に誕生したのが、7ha弱の面積を持つ「南千里丘」地区だ。同地区の主要部分は、長年にわたり大手変圧器メーカー(ダイヘン)が事業所を構えていた土地だ。同社が平成19年末に移転したのに伴い生まれた広大な跡地と、周辺の市有地などを合わせて土地区画整理事業を実施、南千里丘地区として開発された。

「ダイヘンの周辺には、もともと総合福祉会館や保健センターなどの公共施設(市有地)



コミュニティプラザ、保健センターなど公共施設の周囲に高層住宅が並ぶ南千里丘地区

が集積していました。それらを合わせた土地に、老朽化した公共施設の建て替えと再配置を行い、高層集合住宅の開発なども組み合わせ、まったく新たなスモールシティを建設したわけです」(森山市長)

しかも同地区のすぐ横には前出の阪急京都本線が通っている。土地区画整理事業が始まる前から、阪急は同地区に新駅建設の計画を持っていたという。同地区を挟んで両隣の南茨木駅(茨木市)と正雀駅(摂津市)の間は約4km。阪急京都本線の沿線で最大の駅間距離があるため、中間点に新駅を設けようとしていたのだ。その新駅(≡摂津市駅)が南千里丘地区供用開始と同時に誕生することとなった。

南千里丘地区の基本コンセプトは「福祉・



緑化率25%以上が義務付けられている南千里丘地区

教育・文化・医療・健康」のまちづくりだ。市民の福祉や健康づくりの拠点、生涯学習などの教育・文化活動全般に資する機能が集約している。

また摂津市駅前に立地する摂津市立コミュニティプラザや保健センターなどの公共施設はもとより、地区内の建物はすべて緑化率25%以上が義務付けられるなど、環境共生を旨とした非常にクリーンで整然たる街並みが特徴的だ。阪急電鉄の新駅・摂津市駅も歩調を合わせ、駅に起因するCO₂排出量が実質ゼロのカーボン・ニュートラル・ステーションを実現した。これは日本初の試みで、環境共生地区・南千里丘の象徴としても多方面からの注目を集めている。



市域を南北縦断する大阪モノレール



子育て支援、地域活性化、未来の地域リーダー育成などがテーマのイベント「まるごとマーケット」(コミュニティプラザ)



吹田操車場跡地で進む土地区画整理事業



市民の健康意識をはぐくむ多彩な健康イベント(健康まつり)

医療・健康・防災の まちづくり(千里丘新町)

前述のように南千里丘地区の位置する市域北部には、阪急京都本線と並行してJR東海道本線(京都線)も走っている。摂津市内のJR東海道本線(京都線)の駅には、阪急京都本線・摂津市駅からも近い千里丘駅がある。その千里丘駅から大阪市方面に向かって1つ目のJR岸辺駅(吹田市)の隣接地には、かつて吹田市・摂津市の両市域にまたがる旧国鉄「吹田操車場」があり、大正12年から昭和59年まで稼働していた。総面積50haにも及ぶ吹田操車場は、わが国有数の鉄道物流基地として、近畿地方の経済活動に不可欠な存在感を発揮し続けた。

その跡地の活用への動きは昭和62年の国鉄分割民営化後に活発化し、バブル崩壊などを含めた紆余曲折の末、平成19年によくやうく大阪府・吹田市・摂津市・UR・JR貨物・鉄道機構の共同で「吹田操車場跡地地区の整備に関する基本協定(全体構想は『緑と水に包まれた健康・教育創生拠点の創出』)」を締結するに至った。

南千里丘地区誕生の契機となった「ダイエー移転」の同年に、吹田操車場跡地の活用計画も大きく動くことになったわけだ。ところが都市計画決定告示(吹田市、摂津市・道路、公園、土地区画整理事業)が出た翌平成20年、今度はリーマンショックが起こり計画の推進もいったん減速する。だが、平成21年に土地区画整理事業の事業計画および施行規程の認

可が告示され、再び軌道に乗り始めた。

「土地区画整理事業の対象となる操車場跡地は計22ha強です。そのうち摂津市域は7ha強。ちょうど南千里丘地区と同じぐらいの広さになりますが、摂津市と吹田市は当初、それぞれでまちづくり計画を立てていました」(森山市長)

だが平成19年の前出・基本協定締結で、JR東海道本線(京都線)に沿った細長い形の計画地は「医療健康及び教育文化創生ゾーン」(吹田市域)を中核に「緑のふれあい交流創生ゾーン」(吹田市域)と「都市型居住ゾーン」(摂津市域)が並び、機能を分担連携する形で総合的に開発されることになった。「医療健康及び教育文化創生ゾーン」の目玉は国立循環器病研究センター(平成30年度開業予定)だ。吹

田市民病院も移転してくるほか、正雀下水処理場跡地には大学研究機関、医療関連企業などの進出用地を整備し、国立循環器病研究センターを中心に医工連携・産学連携の医療クラスターが形成される。塩野義製薬など医薬品関連メーカーのある摂津市と同様、医薬品関連メーカーが多い吹田市の産業構造の特徴が、共に生かされるまちづくりといえる。

摂津市域に計画される都市型居住ゾーン(計4ha強)は、すぐ隣に防災公園が整備されることにより、高い交通利便性と都市防災性を兼ね備えた居住地区になる。摂津市域の都市型居住ゾーンは、医療クラスターを中核とする吹田操車場跡地開発の一翼を担うと同時に、「福祉・教育・文化・医療・健康」関連の機能と居住地区を併せ持つ「南千里丘地区」と連携させて考えれば、長い間河川や交通網などに市域を分断されてきた産業都市・摂津の歴史に、都市としてのまったく新しい方向性や可能性を付加する、非常に画期的なまちづくり事業であることが分かる。

吹田操車場跡地に摂津市が建設するまちの名称は「千里丘新町」。取材時点



挨拶励行は人間基礎教育のはじまり



鳥飼地区の特産品・鳥飼茄子は「伝統的なわ野菜」の代表

極端に悪化していた財政状況を改善するということになりました。同時にぜひとも解決しなければいけないと思っていたのが、大阪府内でも当時トップとされた小中学校生徒の不登校率の改善でした。財政再建と心の問題の改善は、実は

(平成27年3月)で造りがほぼ完成している千里丘新町の「まちびらき」は、平成28年度中に行われる予定だ。

すべてのまちづくりを支える 人間基礎教育

「まとまった広さの地区に新しい方向性のまちを建設するという念願は、南千里丘地区の完成と千里丘新町のまちづくり計画の推進とで、とりあえず実現に向かっているといえます。それはもちろん嬉しいことですが、私はそれ以上に大切なのが、ハードとしてのまちに魂を入れるソフトのまちづくりであり、ソフトを生み出す心の問題だと思っています。市長就任以来、私が最も力を入れ、市民にも職員にも常に訴えてきたのがこの心の問題です。

た」(森山市長)

摂津市は現在、第4次総合計画に基づくまちづくりを展開しているが、全国の総合計画と同様、摂津市の現行総合計画も主眼は「協働のまちづくり」に置かれている。特徴的なのはこの協働のまちづくりを進める理念に「思いやりの心、奉仕の心、感謝の心、挨拶を励行する心、節約・環境を大切にすること」5つの心」を旨とする「人間基礎教育の徹底」を掲げていることだ。人間基礎教育の徹底こそ森山市長がいう「心の問題」追求のための基本理念なのだ。

「総合計画の基本理念に道徳理念(人間基礎教育)を盛り込んでいるのは、全国でも摂津市だけだそうです。議員さんなどから『なんでやねん』という声もあったのは事実です(笑)。しかし、私が市長に就任する際の目標の1つは、



今年で40回目を迎える摂津まつり(8月)



新幹線車両基地(鳥飼基地)がある摂津のシンボルはゼロ系新幹線(安威川土手の新幹線公園)



地域の自然や文化に触れながらウォーキングや健康遊具での運動を楽しむイベント「うきうき街道」

奥底でつながっています。財政再建も不登校率の減少も、心の問題の改善が伴わなければあり得ないのです(森山市長)

人間基礎教育の根幹をなす5つの心(思いやりの心、奉仕の心、感謝の心、挨拶を励行する心、節約・環境を大切にすること)は、要するに「社会のルールを守る人づくり」を促進するための基本理念である。そして社会のルールを守る人づくりは、協働のまちづくりを遂行するに当たって必要不可欠な「公德心」を、ごく普通に持っている人材育成へとつながっていく。

森山市長が人間基礎教育の徹底を市民および教育現場に向けて発信するだけでなく、職員に向けても徹底した実践を求めたのは、財政再建が「単なる数値の是正だけでは成り立

たない」との思いからだ。森山市長が就任以来、断行してきた行財政改革は着々と効果を上げている。しかし、職員の心の底からの意識改革がなければ「すぐに油断して元の木阿弥になる可能性が大」だと森山市長は危惧する。また市政運営が健全でなければ、市民協働のまちづくりの訴え掛けにも、市民は容易に応えてくれないだろう。

人間基礎教育はいわば、協働のまちづくりを推進するに当たって不可欠な、官民の意識改革をもたらすための基本的方策でもある。

まちづくりの隅々に息づく

人間基礎教育

摂津市では人間基礎教育を事業として積極

的に実践するために、人権女性政策課を実施担当課と定め、前述「5つの心」の醸成を旨とするさまざまな取り組み事業を行ってきた。

まず公園や公共施設、駅前ロータリーの時計台などに人間基礎教育の徹底を呼び掛ける啓発看板を設置し、市庁舎には「まちづくりのテーマ 人間基礎教育」の大きな懸垂幕を垂らした。

また職員がそれぞれ人間基礎教育の広報マンとして活動できるように、全職員の名札に「人間基礎教育の実践!(5つの心)」を印刷し、管理職の名刺にも人間基礎教育の文字を刷り込んだ。

同時に全職員による庁舎出入口での「あいさつ運動」を実施し、市役所が率先垂範して人間基礎教育の5つの心を行動で訴えた。こうしたあいさつ運動の輪環は、市内の小中学校を中心に、市民にも徐々に広がっていく。

「反発や抵抗もありましたが、10年間以上続けるうちに次第に浸透していきました。逆にこの人間基礎教育について講演してほしいという依頼が学校から来るようになったほです(森山市長)

新規採用職員に対しては連続して人権研修を実施。昨年は人間基礎教育10周年を記念して、男女共同参画の川柳コンクールなど



1111匹の鯉のぼりが大空に舞うイベント「摂津の大空に鯉のぼりを揚げよう」(大正川)



市内各所の公共施設で開催される親子広場(市役所)



健康遊具も並ぶ防災公園。ベンチの下には災害時の煮炊き用カマド設備

に「人間基礎教育賞」を創設した。市民の取り組みも幅を広げ、例えば小学校通学路でのセーフティパトロール隊や子ども安全見守り隊による、子どもたちへの積極的な声掛けなど「あいさつを励行する心」の醸成に寄与している。

そうした直接的な動きとは別に、人間基礎教育の5つの心は、まちづくりにも波及し、裏から支えている。例えば南千里丘地区のまちづくりの際に実践された、環境共生を旨とする各種取り組み(緑化率25%や摂津市駅のカーボン・ニュートラル・ステーション化など)は、5つの心の「節約・環境を大切にす

る心」を具現化する事業として、計画段階から強く意識された取り組みだった。

「この取り組みの究極の目標は『人間基礎教育のDNA』を持った摂津の若者たちが、将来、それぞれの活躍の場で、5つの心を立派に発揮してくれることにあります。昔から人づくりには100年掛かるといわれています。これからの地道な啓発活動を続け、人間基礎教育の理念が摂津市政の隅々にまで行きわたり、大きく花開くように、鋭意取り組んでいきたいと考えています」

(森山市長)

摂津市は来年に市制施行50周年の節目を迎えるが、派手な記念イベントなどはあえて行わないという。財政再建が順調に推移してきたとはいえ、昨年春には第5次行政改革実施計画を発表し、行革のより一層の徹底を打ち出したばかりだ。そのため「50周年の年はその先にある100周年に向けた、夢と希望に

あふれた年にしたい」というのが森山市長の方針だ。

また「節約・環境を大切にする心」を中心に人間基礎教育の理念を具現化した南千里丘地区に続き、来年には千里丘新町(吹田操車場跡地)の幕開け(まちびらき)を控えている。森山市長は平成30年までに完成予定の同居住区に、「子育て支援は全国各地どこでもやっているが、『人間基礎教育で社会ルールを守る子どもを育ててくれる摂津市だから住みたい』という家族が、1組でも引越してきてくれたら最高ですね」と語る。今年度から広報課を設置し、取り組み状況を逐次発信できる体制も整った。摂津市の人間基礎教育(道徳理念)を基盤とする特徴的なまちづくりは、これからのいよいよ佳境に差し掛かる。

(取材・文 遠藤 隆／取材日 平成27年3月18日)